

令和元年度

# モデル地区(始良市)における日本語・日本理解講座 及び日本語サポーター講座報告書



公益財団法人鹿児島県国際交流協会

この事業は、一般財団法人自治体国際化協会の助成により、実施されています。

## はじめに

(公財)鹿児島県国際交流協会  
理事長 津 曲 貞 利

法務省の在留外国人統計によると、鹿児島県の在留外国人数は、2019年6月末で11,453人となっており、6ヶ月前の2018年12月末より906人増加しています。国籍別では、ベトナム、中国、フィリピンなどのアジア地域からの方が多く、全体の90%を超えています。また、在留資格別では、技能実習の占める割合が高いことが、鹿児島県の特徴となっています。

当協会では、これまで鹿児島市内のかごしま県民交流センターで、年間を通じて「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を毎週2回開催し、多くの外国人の方々に参加していただき、日本語や日常生活に必要な情報などの提供に努めてまいりました。

しかしながら、最近では、鹿児島市だけではなく県内各地でも多くの外国人が在住しており、これらの地域でも外国人と地域住民との共生の必要性がこれまで以上に高まってきております。

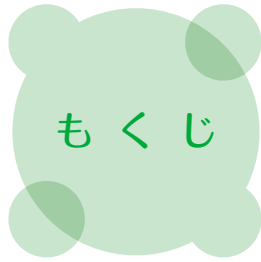
そこで当協会では、自治体や地域住民の方々と一緒に外国人へのサポートの在り方を講座を通じて研究し、その成果を県内に広く情報発信することにより、地域における多文化共生社会の形成を促進することとしました。

最初に、講師の先生と手法を探り、事業のフィールドとなる自治体を募集しました。実施自治体として、県中央部の始良市が協力してくださることになり、当該自治体と一緒に会場確保、受講生の募集を行い、他の自治体職員への見学も呼びかけました。事業費は、(一財)自治体国際化協会の「多文化共生のまちづくり促進事業」を活用させていただきました。

当講座は、外国人が日常生活で必要となる生活習慣や災害時の対応を学びながら、これらの内容を理解するために必要な日本語講座と、日本語講座を受講する外国人をサポートする日本語サポーター養成講座を併せて実施し、地域において災害時に支援できるような人的ネットワークの構築も目指しました。

令和元年9月末から12月初めまでの約2ヶ月間で合計6回の講座でしたが、休日にも関わらず準備していただいた始良市の皆様、講師の上迫様、受講生の参加に配慮していただいた各企業の皆様には、大変お世話になりました。心から御礼申し上げます。

今回の事業成果が、在住外国人を対象とした地域において「日本語・日本理解」の事業に取り組もうとする機関・団体のお役に立つことを期待しております。



はじめに (公財)鹿児島県国際交流協会 理事長 津曲 貞利

もくじ

ごあいさつ 始良市長 湯元 敏浩 .....	1
ごあいさつ 「一億総日本語教師化」へ 異文化教育研修所 有隣館代表 上迫 和海 .....	2
講座のスケジュール及び内容について .....	3
第1回 日本語サポーター講座 外国人との接し方 .....	6
第1回 日本語・日本理解講座 人と親しくなる .....	7
第2回 日本語サポーター講座 さまざまな教材・教具 .....	8
第2回 日本語・日本理解講座 買い物をする .....	9
第3回 日本語サポーター講座 「日本語教室」の目標 .....	10
第3回 日本語・日本理解講座 ルールを守って生活する .....	11
第4回 日本語サポーター講座 文化の違いを意識する .....	12
第4回 日本語・日本理解講座 病院へ行く .....	13
第5回 日本語サポーター講座 事前インタビューの重要性 .....	14
第5回 日本語・日本理解講座 余暇を楽しむ .....	15
第6回 日本語サポーター講座 「ふり返り」と今後へ .....	16
第6回 日本語・日本理解講座 災害が起こったら .....	17
修了式・交流会の様子 .....	18
アンケート結果 .....	20
見学者の感想 .....	22



## ごあいさつ

始良市長 湯 元 敏 浩

この度、日本語教室のモデル地区としまして、「日本語・日本理解講座」「日本語サポーター講座」を（公財）鹿児島県国際交流協会の主催により始良市で開催していただきましたことに、深く感謝申し上げます。

始良市は、県内でも唯一人口が増加している市で、併せて、企業や大型商業施設も進出するなど、今なお発展をし続けている活気あるまちです。しかし一方では、少子高齢化が進み、生産年齢人口の割合は減少しており、多業種において人手不足の状況にもあります。

そのため、人材確保の観点から製造業や建設業を中心に、外国人技能実習生の採用が進み、その結果として市内に居住する外国人の数が増加しており、2019年11月末現在で406人と、ここ3年間で倍増しています。特に、2017年度に外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律が施行されてからは、年間80人ほどの増加が続いています。

この法律が定める技能実習制度において、外国人技能実習生は概ね3年間、受け入れ企業で実習生として技術習得を目指すとともに、地域住民のひとりとして生活することになります。

技能実習生に限らず、在住外国人の方々が、地域において安全かつ安心して生活していくためには、日本の生活習慣や文化を理解していただくことはもちろん、その地域住民も、文化や宗教の違いを認め合い、互いに理解し合うことが大変重要となります。

今後も、男女の別や国籍の違いにかかわらず、すべての人が安心して生活できる、またそれぞれの立場や役割をもって活躍でき、ひとりひとりが主役となれる、まちづくりを進めてまいります。今回の「日本語・日本理解講座」「日本語サポーター講座」は、まさに相互理解の礎になると考えております。

最後に、今回の両講座の開催に当たり講師を務めて頂きました上迫和海先生、受講生参加にご協力を頂きました各企業、そして、開催をして頂きました（公財）鹿児島県国際交流協会に対しまして、心より感謝申し上げます。

また、受講生の皆さんには今回の講座受講を活かし、本市の多文化共生の地域づくりにご活躍いただけることを期待し、ご挨拶といたします。

## 「一億総日本語教師化」へ

異文化教育研修所 有隣館  
代表 上 迫 和 海

自治体の日本語・日本理解講座や大学での留学生対象の授業など、日本語や日本文化の授業を通じて外国人と接する日々を重ね続けて、30年以上が過ぎました。教えてきた学習者の国籍は、百数十か国になります。私の仕事を一口で言えば、日本社会の側から異文化の人々と接触する「最前線」という感覚です。

今回、鹿児島県国際交流協会が始良市の協力のもと実現した本プログラムは、画期的な内容でした。もっとも重要な点は、日本人向けの日本語サポーター養成講座と外国人への日本語日本理解講座を交叉しながら行うことによって、相互に意味深いものとなることです。日本語教師養成や日本語ボランティア養成にも、長年、かかわってきた私にとって、実際に外国人に接することなく日本語教育を学んでいたということの壁は、相当に高いものでした。実際の車に乗らないままの自動車学校というたとえが、わかりやすいのではないかと思います。今回の機会は、その課題を一気に突破するものでした。

私には、「一億総日本語教師化」という夢があります。ここで言う「日本語教師」とは、もちろん、職業としてのそれではありません。文化の異なる者同士が接触するとき、二つの大切な点があります。一つは、不必要に怖れず、構えず、まずは接してみようという態度です。その際のキーワードは、「寛容」です。文化が異なる者同士、けっして避けて通ることのできない違和感を越えてゆくためには、やはり、小さな心構えが重要なのです。もう一つは、相手の文化や置かれている状況に関心を持ち、学び、考える力。あるいは、自分の文化を相手に説明し、理解を得、共有してもらう力。それらは、努力して身につけるところの或る種のスキル（技術）に立脚しているのです。その両方を持つ人が、私の考える「日本語教師」です。日本の国土の上に長いこと暮らしてきた「日本人」が、これから先、楽しく実りある社会を継続して望むのであれば、そのすべての人に「日本語教師」になっていただきたいのです。

6回という回数は、そう多いものではないかもしれませんが、それでも、参加された方々の真摯な姿勢に大いに心動かされ、日本人・外国人双方に、期待以上の成果を感じるプログラムとなりました。私個人としては、「一億総日本語教師化」への小さな小さな、しかし、確かな手応えのある一歩のように感じられました。このような機会を企画し、準備し、そして実現された関係各位に、心よりの敬意と感謝を表す次第です。

そして、今回のプログラムで具現化された物事が、これで収束してしまうのではなく、むしろ、大きな目標に向かう長い道のりへの出発点となることを願って、ご挨拶と致します。

# 講座のスケジュール及び内容について

## 1. 概要

在住外国人を対象とした日本語講座等が実施されていない地域の1自治体をモデル地区として、在住外国人が生活していく上で必要な生活習慣や災害時の対応等について学ぶとともに、それを理解する上で必要となる最低限の日本語能力の習得を目指した講座を実施する。併せて、講座をサポートするボランティア（日本語サポーター）も育成し、災害時の支援ができるようなネットワークを構築する。

講座のノウハウや成果については報告書として整理し、日本語講座実施自治体以外の市町村等と共有し、講座を希望する市町村への取組を支援する。

## 2. 実施日

9月	10月	11月	12月
29日	13日 27日	10日 24日	8日

隔週日曜日毎に実施

## 3. 受講者数

始良市近郊在住の日本語レベル初級程度の外国人住民（日本語学習者） 15名

始良市在住の日本語学習支援に興味のある日本人住民（日本語サポーター） 15名

## 4. 実施会場

- ・始良市文化会館（加音ホール）
- ・あいらクリーンセンター（11/10のみ）

## 5. 講師

異文化教育研修所 有隣館代表 上迫 和海

## 6. 参加費

各講座とも 無料

## 7. 講座内容

月日	授業Ⅰ(60分) 13:00-14:00 [日本語サポーター講座]	授業Ⅱ(90分) 14:00-15:30 [日本語・日本理解講座]	授業Ⅲ(30分) 15:30-16:00 [日本語サポーター講座]
9/29	開講式・外国人との接し方	人と親しくなる	次回の授業準備(1)
10/13	さまざまな教材・教具	買い物をする	次回の授業準備(2)
10/27	「日本語教室」の目標	ルールを守って生活する	次回の授業準備(3)
11/10	文化の違いを意識する	病院へ行く	次回の授業準備(4)
11/24	事前インタビューの重要性	余暇を楽しむ	次回の授業準備(5)
12/8	「ふり返り」と今後へ	災害が起こったら	修了式・交流会



## 8. 講座の流れ

### 13:00～14:00 日本語サポーター講座

まずは日本人住民（サポーター）が集まり、日本語学習者をサポートする際に必要な知識について、毎回テーマに沿って学びます。



### 14:00～15:30 日本語・日本理解講座（前半）

外国人住民（学習者）も集まり、前半の45分は、講師より学習者（外国人住民）を対象とした授業を行います。



例えば、テーマが「買い物をする」の場合、講師は学習者ひとりひとりに、「買い物はどこでしますか？」と聞き、学習者はそれに答えます。サポーター（日本人住民）は、その様子を見学します。



14:00~15:30  
日本語・日本理解講座（後半）

テーマに沿ってサポーター（日本人住民）と学習者（外国人住民）が会話しします。



講師の合図で会話する人を変えて、再びテーマに沿って会話しします。サポーターの皆さんは、身近な教材を準備し、学習者とスムーズな会話ができるように工夫します。

15:30~16:00  
日本語サポーター講座

サポーター（日本人住民）だけ残り、今日の日本語・日本理解講座のふり返りと次回のテーマに関して準備する物について話し合います。



サポーターは、自分のためのポートフォリオ（学習履歴）と学習者のためのポートフォリオを次回までに書いておきます。

# 日本語サポーター講座

第1回 9月29日 13:00-14:00 外国人との接し方

## 講義内容

### 言語によるコミュニケーション

- 1 「やさしい日本語」を使う
- 2 「フォリナートーク/ティーチャートーク」にならないように
- 3 表記(ローマ字の考え方、漢字の考え方)
- 4 語彙のコントロール(相手のレベルに応じた単語を選択する)
- 5 はっきりと言う
  - ①形式面(分かりやすく文末まできちんと話すこと)
  - ②内容面(意図をはっきりとさせること)

### ○講座の冒頭にこんなクイズがだされた。

言語サービスの充実の一つにわかりやすい表記があげられる。ある災害時の避難所内に中国、フィリピンなどさまざまな出身の人たちがいるとする。日本語で掲示する場合、最も適当なものを、次の1~4の中から一つ選べ。

- 1 もうふ みずは、午後3時から渡します。5分前に受付に来てください。ふんまえ うけつけ き
- 2 もうふ みず はいきゆうは、午後3時から開始します。5分前に受付に集合してください。ごご じ かいし ふんまえ うけつけ しゅうごう
- 3 Moofu to mizu wa gogo 3 ji kara watashimasu. 5 fun mae ni uketsuke ni kite kudasai.
- 4 もうふ と みず は ごご 3じ から わたします。 5 ふん まえ に うけつ  
け に きて ください。

〔平成17年度 日本語教育能力検定試験〕より

答えは、1



優しい日本語への言い換え  
(例) 配給 → わたす

### ○「やさしい日本語」を話すために

通常、日本人は3万~4万程度の単語を使って生活している。やさしい単語を意識し、文章を単純化して伝えること。日本人は「NO」をはっきり伝えることが苦手である。「答えをにごすことは親切ではないこと」を理解しなければならない。

### ○「フォリナートーク/ティーチャートーク」にならないように

ゆっくり話す時と自然に話す時とは発音が違うため、自然な速度で話すこと。相手が間違えても訂正してはいけない。助詞を強く言わない。

### 日本語サポーターの気づき(サポーター用ポートフォリオより抜粋)

○外国の方と接する機会では、自分が思った以上に上手く接することが難しいなと感じました。最初の講義で「外国人だからといって、ゆっくり変な日本語で話してはいけない。」と言われて、とても理解できたのに実際に話してみると、無意識にいつもと違う口調で話してしまっていました。これから慣れていきたいと思います。

# 日本語・日本理解講座

第1回 9月29日 14:00-15:30 人と親しくなる

## 講師と学習者（外国人住民）

講師は、学習者ひとりひとりに対して丁寧に質問を行った。  
「お名前は。」「出身はどちらですか。」「いつ来日しましたか。」  
他にも「今日は何時に起きましたか。」などの質問を投げかけた。



その様子をサポーターは見学します。

## 日本語サポーターと学習者（外国人住民）

次にサポーターの皆さんは、サポーター養成講座で学んだこと、また講師が学習者に接する様子を参考に、講師の合図で話す相手を交代しながら会話を行った。



### 講座を終えて：日本語学習者のポートフォリオ（サポーターが記入）より抜粋

- 日本語の発音がとても上手で3ヶ月前に来たとは思えないくらいすごいなと思いました。
- ひらがな、カタカナで上手にノートを書いていました。あと1年半、日本にいるうちに、だいぶ話せるようになるのではないのでしょうか。



# 日本語サポーター講座

第2回 10月13日 13:00-14:00 さまざまな教材・教具

## 講義内容

○日本語教室を行ううえで、日本語学習者との会話を充実させるため様々な教材や教具を用いる。その教材や教具の特性や活用方法及び注意点を学んだ。

- 1 実物（レアリア）…「実物は分かりやすい」という思い込みに注意すること。関心を引くので手段としては有効だが、自分と同じように相手が理解するという思い込みで誤解が生じることがある。
- 2 生教材…日本人用の教科書は使わない。新聞広告などを使うのがよい。
- 3 写真…情報量が多い。細かな情報を伝えるときは有効。
- 4 絵・イラスト…単純な意味はむしろ伝えやすい。
- 5 ジェスチャー…誤解を生みやすい。例えば、「食べる」を教える時には実際に食べてみせる。その場合、「噛む」動作が重要。飲むとの違いを意識した動作であること。
- 6 CD…音を聴くことに集中できる。
- 7 動画…ストーリーを使って説明することには有効だが、セリフ（音）は聞き取っていない場合が多い。

○例えば、こんな話があった。

日本語学習者へ「車でいきますか？」と聞きたい時、伝わりやすいのは、写真？イラスト？



答えは、「イラスト」 写真だと情報量が多すぎて、伝わりにくい可能性がある。



○日本語を学ぶ外国人と日本語で会話するうえで一番大切なのは、自分がどこまで相手の立場を理解できるか、複数人で会話するときに皆に公平であることを意識することが必要。

○「平等と公平は違う」ことを意識する。

## 日本語サポーターの気づき（サポーター用ポートフォリオより抜粋）

○「車」という言葉は写真を見せればすぐに理解できるだろうという安易な考えをしていました。相手のことを考えて、頭を柔らかくしないといけないと気づかされました。

○ふり返りの時間で「公平」と「平等」についての話になった。今回、「公平」に話をする点において、相手の言語レベルや興味にそれぞれ配慮するよう心がけたのはよかった点かなと思う。

# 日本語・日本理解講座

第2回 10月13日 14:00-15:30 買い物をする

## 講師と学習者

講師は、今回のテーマ「買い物をする」に関する質問をそれぞれ学習者に行った。「どこで買い物をしますか。」「何を買いますか。」「その店は安いですか。」



会話の中で、「百円ショップ」「ディスカウントショップ」「移動販売」などの言葉が話題にあがった。

講師によるインタビューが進むうちに、学習者の中から普段買い物をしている店が共通であることが分かったり、同じ商品が店によって値段が違うことが分かったりした。講師は、学習者との一対一の会話から自然な流れで他の学習者との情報交換の橋渡しを行った。

## 日本語サポーターと学習者

サポーターは自宅から持参してきた様々なお店のチラシを広げ会話をし、講師の合図で相手を交代し会話をした。



### 日本語サポーターの気づき（サポーター用ポートフォリオより抜粋）

- 日本語の能力に差があっても、チラシのおかげで2人の外国人と話が途切れることはありませんでした。
- 今回は3人で話す時間があり、おふたりに共通する話を心がけたが、こちらから質問してそれぞれ答えをもらう形で終わってしまった。おふたりから話を引き出して皆で会話できるような流れが作れたらと思った。

# 日本語サポーター講座

第3回 10月27日 13:00-14:00 「日本語教室」の目標

## 講義内容

○「記憶」と「動機」について学ぶことで、「日本語教室の目標」がみえてくる。

### ・「記憶」について

記憶の過程は、記録（インプット）→保持→想起（アウトプット）に分けられる。

記憶は、その保持時間によって「短期記憶」と「長期記憶」に分けられる。更に、長期記憶はその記憶される内容から「宣言的記憶」と「手続き的記憶」に分かれる。「宣言的記憶」は言葉で説明できる記憶で、さらに「エピソード記憶」と「意味記憶」に分けられる。「手続き的記憶」は、動作・行為を行う時に無意識に行うことができる、身につけている記憶のこと。

### ・「動機」について

道具的動機	ある目的がほかにあり、その目的を達成するためにその行動をすること。例「試験に合格すると給料があがるから日本語を学ぶ。」
統合的動機	それが好きだから、興味があるから行動すること。例「日本のアニメが好きだから日本語を学ぶ。」
外発的動機	外部からきた動機。例「会社からすすめられたので来ました。」
内発的動機	本人の中から発生した動機。例「自分で来たいと思って来ました。」



以上のことから、日本語学習支援で大切なことは、

「宣言的記憶（文法等）」を教えるのではなく、「手続き的記憶」のための体験をさせること。

また、学習者が会いたいと思う人になる。

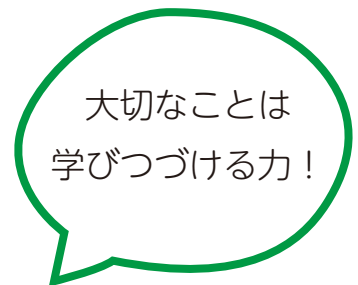
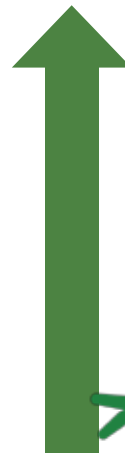
学習者が通い続ける、学び続けることが大切である。

そのためには、人間にとっての普遍性（好きなことや嬉しいこと）を考えることが大切である。

○講師が日本語学習者から言われて1番嬉しい言葉

「日本語教室に通って先生としゃべっていたら、勉強しているつもりでもないのに、気づくと日本語が上手になっていた。」

Goal



## 日本語サポーターの気づき（サポーター用ポートフォリオより抜粋）

○今回は「記憶」について、どのように記憶され、どのような記憶が残りやすいかの話から、何かを継続するための動機までを学びました。最も印象に残ったことは、「続けたい」と思わせるにはどのような工夫をすればよいかということと、学習者が教室に来なくなるのは教える側の問題であるということです。私にとっては、とても大きな課題だと思いました。



# 日本語・日本理解講座

第3回 10月27日 14:00-15:30 ルールを守って生活する

## 講師と学習者

「ルールを守って生活する」では、ゴミの出し方や分別についてインタビューを行った。



ゴミに関する会話の中で「生ごみ、リサイクル、もったいない、蛍光灯」などが学習者の興味を引く、または初めて聞く言葉とわかり、講師はそれについて丁寧に説明を行った。

## 日本語サポーターと学習者

学習者とサポーターと1対1での会話のあと、今回はグループでの会話を初めて行った。サポーターは、始良市のゴミだしカレンダーの他、それぞれ自分で用意したゴミを持参しており、それを利用して会話をすすめた。



ふり返りのとき、講師より「自然な会話になってよかった。」というお話があった。

## 日本語サポーターの気づき（サポーター用ポートフォリオより抜粋）

○今回は日本人3人と学習者3人というグループだったので、他の方がどういう話し方をしているかがはっきりとわかり、自分の話し方が学習者用に特化しているのだと改めて気づきました。

# 日本語サポーター講座

第4回 11月10日 13:00-14:00 文化の違いを意識する

## 講義内容

### ○文化理解

カルチャーアシュミレーター・・・自分と違う価値観をどのくらい推測できるか。

自文化中心主義（エスノセントリズム）・・・自分の文化を最も正しいものと考え、それを判断基準とする。

- ・相手の文化や価値観を個別に判断し、話すことが大切である。
- ・ステレオタイプはすべての人にはあてはまらないが、文化理解のヒントになる面がある。

### ○こんな問題が出された。

タイからの留学生Aさんが大学の先生や友人たちと研究室で雑談をしていたとき、来週、先生の仕事を手伝わないかと日本人の友人B君から誘われた。Aさんが、そのときは「ええ」と返事したので、B君や先生は彼女が手伝うと思った。しかし、いざ仕事を手伝う段になるとAさんは現れなかった。

問 Aさんは、なぜ「ええ」と返事したのか。

- 約束を守らないルーズな性格なので適当に答えた。
- 翌日の試験のことで頭がいっぱいで、きちんと答える余裕がなかったから。
- 日本人の友だちと一緒に仕事をして疲れていて、質問の意味がよくわからなかったから。
- 先生の前で仕事を手伝わないと言うのは失礼だと思ったから。

「平成5年度 日本語教育能力検定試験」より

答えは、d

## 日本語サポーターの気づき（サポーター用ポートフォリオより抜粋）

### サポーター養成講座を終えて

- 自分の尺度で計らない。寛容に接することを心がける。異文化の発見が自文化の発見に繋がるということに納得した。
- 自分の固定観念を捨てて、頭を柔らかくして考えてみる。年を経るごとに頭が固くなっているので、今日は良い訓練になったと思います。相手の文化をよく知らない時でも、自分達とは違う文化や習慣があるのだということを念頭に推測してみる、国がわかっていたらその国について調べてみようと思ったことでした。

### 日本語・日本理解講座を終えて

- 問診票に記入することは、日本語のたどたどしい人にとって大変な事だと思われそうです。具合が悪くて病院に行くのに受付の段階から体調どころではないでしょう。会社の人付き添いが必要だと思います。今回、初めて女性の方と会話しました。本当に困った事がおこった時、この方達はどのようにしてクリアしていくのだろうと思いました。そのような時、役立てる事を今、学んでいるのだと感じ始めました。

# 日本語・日本理解講座

第4回 11月10日 14:00-15:30 病院へ行く

## 講師と学習者

講師は、病院の体験、症状の表現、身体の各部位の名前などについて学習者との会話をを行った。



「ここで病院に行ったことがありますか。」という講師の質問に「健康診断で行きました」という返事が返ってきたため、レントゲンや血液検査という言葉も話題にあがった。

この日は2市の国際交流担当者や日本語教師を目指す方、そして学習者が勤務する企業からも見学があった。

## 日本語サポーターと学習者



この日が最後の受講になる学習者がいたので、記念に皆さんで集合写真を撮影。



# 日本語サポーター講座

第5回 11月24日 13:00-14:00 事前インタビューの重要性

## 講義内容

○学習者と会話を充実させるためには、相手のことを知ることが大切である。そのための事前インタビューのポイントや注意点を学んだ。

レディネス(準備)		ニーズ	
①外的(滞在期間・多忙さ) ②個人的(日本語レベル・学習経験・趣味)		①場所(どこで使う)・相手(誰と話す) ②目的 ③目標・報酬	
①3年間までの滞在が多い・多忙である ②多様	外国人材	①職場・職場の人 ②仕事・生活 ③昇進・在留資格延長	
①4年間の滞在は少ない。半年～1年の交換留学や6～7年いて博士になる人もいる。 ②多様	留学生	①研究室の先生や学友、アルバイト先の人 ②学習・進学 ③合格・就職	
①ずっといる ②例えば、宿題はいっぱいしたい。	配偶者	①配偶者の家族・義父、義母 ②生活 ③幸せ、円滑なコミュニケーション	
	児童・生徒		
	その他		

上記の表を使い、講師の経験から学習者の立場ごとの大まかな傾向について説明があった。留学生と聞くと、4年間大学に在学するという思い込みがあるかもしれないが、そうではないことが多々ある。丁寧にインタビューを行うことが大切である。

また、インタビューのなかで学習者が答えたくないことは、答えなくていいことを必ず事前に伝えること。

## 日本語サポーターの気づき (サポーター用ポートフォリオより抜粋)

○相手を知るためには必要な情報を得るということは、相手が継続的に学習の場に通うことに大いに役立つと思った。「教える」のではなく「学ぶ」ということ。相手に対して押しつけにならないよう、相手の受けとりやすい形でコミュニケーションをとらないといけない。一番意識していかないといけない部分だと思った。

○今回の学習では、日本語学習者の事前インタビューを通して、それぞれの学習環境やレベル、目的や目標などを確認しておくことの重要性を学んだ。まずは相手のことを理解し、目的に合った日本語の表現を使っていくことで、より自然な会話ができるようになり、学習者のストレス軽減につながる事が分かった。

# 日本語・日本理解講座

第5回 11月24日 14:00-15:30 余暇を楽しむ

## 講師と学習者

講師は、「休みの日は、何をしますか」の質問からインタビューをはじめた。



学習者より「休みの日は、パソコンで建築模型を作る」と聞き、絵を描いて説明してもらった。教室にいる全員から「すごい！（休みに細かくて難しいことしてすごいです！）」の声……。もう1人の学習者は、職場で知り合いになった人と地元の小学校の体育館で定期的にバスケットボールをしているという返事だった。こちらも「すごい！（コミュニケーション力が高い！）」の声があがった。

## 日本語サポーターと学習者

「余暇を楽しむ」というテーマのため、サポーターの皆さんは始良市の観光マップや観光資料を用意している。



この日は、電車が一時運転見合わせになるほど大雨が降り、電車や自転車で来る学習者の参加は難しいと思っていたところ2名の学習者の参加があった。講師は、学習者とサポーターが1対1で会話し、他のサポーターは二手に分かれて見学をする形をつくった。

### 日本語サポーターの気づき（サポーター用ポートフォリオより抜粋）

○相手がどんなことに興味を持っているか知ったうえで話を進めていこうと思ったので、地図や資料等で行ったことがある場所があるかを聞いてみてから話をすすめた。友だちと話をしているような雰囲気になればと思い、普通に話すことを心がけた。1回目はそれがうまくいったと思う。

# 日本語サポーター講座

第6回 12月8日 13:00-14:00 日本語サポーター講座 「ふり返り」と今後へ

## 講義内容

○ボランティアの立ち位置を、責任とお金を基準に考えてみる。

仕事は、働いてお金を得る。その代わりに責任が伴う。

趣味は、自分の好きなことを行い、それに係る費用は自分で負担する。責任は伴わない。

それでは、ボランティアはどうだろう。

さまざまな考え方があると思うが、「金銭面では ±0、責任は少し伴う」と考えておくのはどうだろうか。

日本語ボランティアの活動をする際に、交通費や資料代、会場費など費用をすべて個人で賅うのは負担が大きく、活動自体が長く続かない場合がある。責任を重く考えすぎると始められないし、軽く考えすぎると自己満足に終始してしまう。

○メタ認知について

自分が何を知っていて、何を知らないか。また、何に関心が向いているか。自分を知ってこそ、自分ができることが分かり、自分の何が人の役に立つかが分かる。

○レポート作成

「メタ認知」を意識しながら、これまで日本語サポーターとして学習者と会話し、それを記録した学習者ポートフォリオを読み返す。その後、「学習者（外国人）に対して」と「自分に対して」の視点で「私が自分について発見したこと」「自分の知らない自分」についてレポートを書く。



## 日本語サポーターの気づき（サポーター用ポートフォリオより抜粋）

○自分をみつめて、自分の学習の中から次へのステップを導くこと、それを継続していけたらと思います。今後、このように外国人と接する機会があれば、まずはナチュラルスピードの丁寧な話し方を心がけ、更に深くかかわりを持つことがあれば相手の文化を尊重しつつ、自分を見つめ直しながら接していこうと思います。

○自分を知ることが大事で、どう学んで行動していくか…私にとっての課題です。日本語サポーターが自分にあっているのかどうか何度か考えたこともあるが答えはマダ。



# 日本語・日本理解講座

第6回 12月8日 14:00-15:30 災害が起こったら

## 日本語サポーターと学習者

最終回は、まずサポーターが学習者へ「災害が起こったら」についてインタビューを行った。用意していたハザードマップから学習者の住居を見つけ、1番近い避難所を一緒に探した。



## 講師と学習者



鹿児島でよく起こる「台風」や「大雨」などから「土砂崩れ」や「洪水」まで災害で使う言葉が次々と会話の中に登場した。また、桜島の「噴火」も話題にあがった。

さらに、地震の時の注意点について会話を行った。

### 日本語サポーターの気づき（サポーター用ポートフォリオより抜粋）

○私自身、災害の完全な備えが出来ておらず、まず逃げることを伝えました。台風、津波等の言葉は外国人の方もよく知っておられます。マップを見て、自分の住むところは、いかに海に近いか、危ないか等がわかったと思います。自宅と会社が近いようですが、よく確認されるようすすめました。

# 日本語・日本理解講座及び日本語サポーター講座（修了式・交流会）

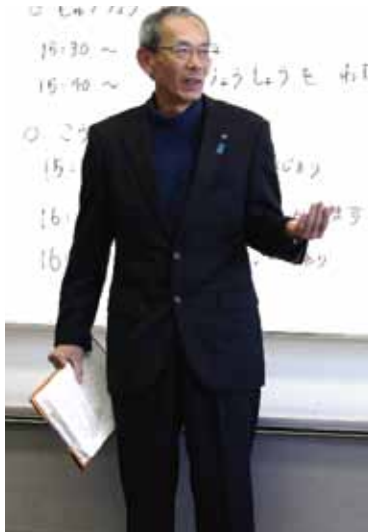
第6回 12月8日 15:30-16:30 修了式・交流会

## 修了式

### 挨拶



(公財) 鹿児島県国際交流協会  
事務局長 肥後 憲郎



始良市 企画部次長兼企画政策課長  
松林 洋一



異文化教育研修所 有隣館  
代表 上迫 和海

### 修了証書授与

全6回の講座中、5回以上受講された方に修了証の授与を行った。



日本語サポーター養成講座は10名に授与した。



日本語・日本理解講座は8名に授与した。

この修了証書は、公的な効力を発揮する証明書ではないが、日本語学習者には学習意欲や日本語学習に対するモチベーションを高めること、日本語サポーターにはサポーターとしての功績と今後の活動のモチベーションを高めることを目的に始良市と県国際交流協会の連名で発行した。



交流会

外国人学習者、日本語サポーターがそれぞれ1品の食べ物を持ち寄り、交流会を行った。



料理の紹介



乾杯



フィリピン料理



美味しい料理の数々…



サポーターも学習者も講師も一緒に



集合写真



## アンケート結果(日本語学習者(外国人住民))

回答数：14名

1. 授業は楽しかったですか？

とても楽しかった	まあまあ楽しかった	普通	あまり楽しくなかった	楽しくなかった
14	0	0	0	0

2. 先生の日本語はわかりやすかったですか？

わかりやすかった	まあまあわかりやすかった	普通	少しわかりにくかった	わかりにくかった
11	3	0	0	0

3. この授業に参加して、日本人と日本語で話しやすくなりましたか？

話しやすくなった	まあまあ話しやすくなった	少し話しやすくなった	あまり変わらない	変わらない
10	1	1	0	0

4. 授業の長さは、ちょうど良かったですか？

ちょうど良かった（12名）

短かった（2名）

長かった（0名）

5. 特に楽しかった、役に立った授業内容があれば書いてください。

- ・病院のかかり方とゴミの分別に関する授業がよかった。
- ・病院のことについて、災害についての授業は実用的でよかった。
- ・病院の行き方について、何を持っていけばよいかや病気になったら何をすればよいかを学ぶことができた。
- ・生活するうえでコミュニケーションを取るときに使える日本語が授業にあったので楽しかった。（2名）
- ・全ての授業が楽しく、毎回勉強になった。（4名）
- ・発音がよくなりました。言葉と文法と漢字が良く分りました。

6. もし、また日本語講座があったら、参加したいですか？

参加したい（12名）

参加したくない（0名）

わからない（2名）

7. もし、また日本語講座があったら、授業はどのように進めてほしいですか？（複数回答可）

・話すことを中心に－（9名）	・教室の外での活動を中心に－（8名）
・教科書を中心に－（6名）	・その他－（0名）
・ゲームなどの活動を中心に－（3名）	

8. 勉強してみたいことがあれば、書いてください。

・日本語を使ったコミュニケーション法－（4名）	・日本語講座があったら参加します－（2名）
・N3に合格する勉強をしたい－（2名）	・日本人の友だちの作り方
・アクティビティのある授業があればよい	・日本食の作り方

## アンケート結果(日本語サポーター(日本人住民))

回答数：10名

1. この講座は役に立ちましたか？

とても役に立った	役に立った	普通	あまり役に立たなかった	役に立たなかった
5	3	2	0	0

2. 内容はどうでしたか？

よくわかった	まあまあわかった	普通	少し難しかった	難しかった
3	5	2	0	0

3. この講座に参加して、在住外国人に話しかけることに抵抗がなくなりましたか？

抵抗がなくなった	まあまあ抵抗がなくなった	少し抵抗がなくなった	あまり変わらない	変わらない
4	5	1	0	0

4. 授業の長さは、ちょうど良かったですか？

ちょうど良かった（9名）

短かった（0名）

長かった（1名）

5. 特に役に立った内容があれば書いてください。(一部抜粋)

- ・相手の状況を知ったうえで、必要なお手伝いをする事の大切さ。決め付けで物事を判断しない大切さ。
- ・始良市のことを知るきっかけになった。
- ・日本語を教えるのではなく、自分の中に答えを見つけることがわかった。

6. 今後、始良市で日本語講座が行われた場合、サポーターとして参加しますか？

参加したい（6名）

参加しない（1名）

わからない（3名）

7. 今後、始良市より防災訓練等で外国人への支援者として要請があれば協力しますか？

協力する（8名）

協力しない（1名）

わからない（0名）

8. 今後、必要だと思われる在住外国人の方への支援があれば教えてください（複数回答可）

・日本語支援－（7名）	・災害時における外国人支援－（5名）
・生活支援(行政手続き)－（2名）	・生活支援(医療・福祉)－（2名）
・外国につながりを持つ子どもへの学習支援－（2名）	

9. 勉強してみたいことがあれば、書いてください。(一部抜粋)

- ・日本語学習支援のボランティア活動があれば参加したい。(同意見複数有)
- ・外国の方と交流できてとても楽しかったです。また趣味を通してなど、楽しみながらの交流会もありましたら参加してみたいと思いました。



## 日本語・日本理解講座(モデル地区事業)を見学した感想

鹿児島県国際交流協会が開催した始良市モデル地区における日本語・日本理解講座の6回講座のうち4回を見学させてもらった。

見学した動機は、近年、多くの外国人が技能実習生として本市にも住むようになる中で、本年4月から特定技能実習制度が始まったことから、自治体の外国人との多文化共生政策について注目されるようになった為である。

今後、増えていく外国人技能実習生に対し、市としてどのように対応していけば良いのか？様々な案内表示、ゴミ出しなど生活上の案内パンフ、ホームページ等の多言語化など何をどこまですべきか見当もつかない。また、本市で日本語講座を開催すべきなのか？開催するとしたら講師はいるのか？費用はいくら掛るのか？なども参考にしたかった。

本講座の講師は、鹿児島市内で外国人向けの日本語講座を専門に開催されている「有隣館」の上迫和海先生であった。講座の内容は、日本語サポーターを育成(日本人受講生15人)するために、前座で毎回変わるテーマにそった外国人へのサポート方法を研修し、本番で来日して聞かない技能実習生15人と実際に面会してテーマについて語り、その中でポイントとなる日本語を教え、その後、技能実習生に帰ってもらってから対応について感想や反省を述べあうというものである。

私が見学した時は「買い物をする」「ルールを守って生活する」「病院へ行く」「余暇を楽しむ」の4つテーマについて技能実習生にポイントとなる日本語を教える実践をしていた。どれも在住外国人には最低限知っておいてもらいたいものである。私が見学出来なかった時の講座テーマも「人と親しくなる」「災害が起こったら」というもの。上迫先生が教えるポイントも目から鱗が落ちるように納得いくもので、日本語教室も小学1年生に国語を教えるような安易なものではないという事が分かった。

今回、モデル事業の講座を見学してもらい考察したことは、小さな市で市直営の外国人向け日本語講座を開催していくには限界があるので、今回のような日本語サポーター養成講座を進めていく必要があるということだ。そうすることにより、外国人にとっても日本語サポーターが身近なものになり相談しやすい環境が生まれてくると思われる。

また、生涯学習での公民館講座等で、優秀な日本語サポーターやNPO法人を講師にして外国人向けの日本語講座を開催することも必要である。様々な案内表示、生活上の案内パンフ、ホームページ等の多言語化は、多言語に対応するのではなく、「やさしい日本語表記にしてどの国の在住外国人も読めるようユニバーサルデザイン化する方が効率的であると感じた。

なお、本市は農業の盛んなまちであり、農業分野の技能実習生も多いことから、雇用主責任の観点から、雇用主だけが参加する日本語サポーター養成講座を開催し、地域とのコミュニティ活動や雇用していく上での生活支援の注意事項などを学習してもらう場を設ける必要もあると感じている。

今回の県協会が開催したモデル講座を見学させてもらったことは、今後外国人と共生していく政策を図る上で大変参考になった。本当に有難うございました。

南九州市企画課 中木原 司



〈参考資料：講座で使用した様式〉

※日本語サポーターがその日の講座から学んだこと、気づいたことを記入します。

始良市における 日本語サポーター講座

学習ポートフォリオ

氏名

第3回 10月27日	学んだこと・感想
13:00-14:00 「日本語教室」の目標	
14:00-16:00 日本語・日本理解講座「ルールを守って生活する」	

〈参考資料：講座で使用した様式〉

※日本語サポーターがその日の会話の相手となった外国人受講者のことについて記入します。

あいらし にほんご にほんりかいこうざ  
始良市における日本語・日本理解講座

がくしゅう  
学習ポートフォリオ

なまえ

きにゅうしゃ  
記入者

だい かい がつ にち 第2回 10月13日	まな かんそう さぽーたーきにゅう 学んだこと・感想 (サポーター記入)
14:00-16:00	にほんご にほんりかいこうざ か もの 日本語・日本理解講座「買い物をする」



